

「市民参加を円滑に進めるためのワークショップ」報告書

平成26年10月

江別市企画政策部政策推進課

I 「市民参加を円滑に進めるためのワークショップ」実施概要

1. ワークショップの目的

江別市のまちづくりを進めるに当たり、「えべつ未来づくりビジョン（第6次江別市総合計画）」においても、まちづくりの基本理念の根幹に「協働のまちづくり」をおくこととしている。

全国や全道の市町村において、主体的な市民参加のまちづくりが望まれている中、江別市においてもさらなる協働のまちづくりを進めていく上で、円滑な市民参加が必要となっている。

こうしたことを受けて、今回のワークショップ事業は、「江別市自治基本条例」の考え方にに基づき、市民参加の重要性についての講師からの講演を交えながら、ワークショップの手法を用いて、市民参加についての現状や課題、さらには、より良い市民参加のあり方について、直接市民の声を聞くことを目的として実施したものである。

2. ワークショップの成果の生かし方

市では、より良いまちづくりに向け、広く市民の意見を聞き、その意見を政策などに反映していくため、パブリックコメントをはじめとする仕組みづくりに努めてきたところである。今回のワークショップは、市民目線による意見を直接お聞きするために、無作為抽出によるアンケートの回答者から参加を募って実施したものである。

ワークショップでいただいた意見は、報告書として取りまとめ、今後の江別市における市民参加の取り組みに生かしていくこととする。

また、今後、市民参加の手続等を定める条例の制定に向けた第三者委員会における検討のための資料として活用するものとする。

3. 開催日時・場所・参加者数

(1) 平成26年8月22日（金） 18：30～21：00

参加者数 16名（男性12名 女性4名）

(2) 平成26年8月23日（土） 13：30～16：00

参加者数 19名（男性8名 女性11名）

※上記両日とも、江別市民会館21号において開催。

4. 当日のスケジュール

8月22日（金） 18：30～21：00（150分）

18：30	10分	開会	挨拶、ワークショップの流れを説明
18：40	30分	ミニ講座	「円滑な市民参加によるまちづくりのために」 講師：石塚雅明 ・パワーポイント使用 ・市民参加に関するアンケート結果
19：10	50分	市民参加を円滑に進めるためのワークショップ	ワークショップ討議内容 (1) 市民参加の意義について (2) 市民参加の進め方について
20：00	40分	発表	グループごとに話し合った内容発表
20：40	15分	質疑応答・講評	意見交換とまとめ
20：55	5分	閉会	挨拶

8月23日（土） 13：30～16：00（150分）

13：30	10分	開会	挨拶、ワークショップの流れを説明
13：40	30分	ミニ講座	「円滑な市民参加によるまちづくりのために」 講師：白鳥健志 ・パワーポイント使用 ・市民参加に関するアンケート結果
14：10	50分	市民参加を円滑に進めるためのワークショップ	ワークショップ討議内容 (1) 市民参加の意義について (2) 市民参加の進め方について
15：00	40分	発表	グループごとに話し合った内容発表
15：40	15分	質疑応答・講評	意見交換とまとめ
15：55	5分	閉会	挨拶

5. ワークショップの進め方

(1) ワークショップ運営体制

担当	氏名	主な所属先・団体名
8月22日講師 全体コーディネーター	石塚 雅明	株式会社石塚デザイン設計事務所 代表取締役 北海道地域づくりアドバイザー
8月23日講師 全体コーディネーター	白鳥 健志	NPO法人えべつ協働ねっとわーく 理事長
Aグループ ファシリテーター	宮本 奏	NPOファシリテーションきたのわ 代表
Bグループ ファシリテーター	橋本 正彦	NPOファシリテーションきたのわ 運営委員 NPO Community Hub 江別港 代表
Cグループ ファシリテーター	林 匡宏	NPO銀のしずく 代表
Dグループ ファシリテーター	千葉 正和	NPO法人えべつ協働ねっとわーく 事務局長

※ファシリテーター：中立の立場から、話し合いが円滑に進むように参加者から意見を引き出す進行役のこと。

(2) ワークショップの進行について

ワークショップの議題及び進め方

各グループ4名から5名の市民と、ファシリテーター1名を配し、下記(1)、(2)の議題に沿ってグループ内での意見交換・集約を行った。

■ワークショップの議題

- (1) 市民参加の意義について
- (2) 市民参加の進め方について

■ワークショップ進行内容

- ステップ1 各グループ内自己紹介
- ステップ2 グループでのワークショップの進め方、ルール確認
- ステップ3 「(1) 市民参加の意義について」意見交換
- ステップ4 各グループ内意見集約
- ステップ5 「(2) 市民参加の進め方について」意見交換
- ステップ6 各グループ内意見集約
- ステップ7 全体発表

II ワークショップの内容

1. 市民参加のまちづくりに関するミニ講座

ワークショップの開始に当たり、参加者に市民参加について共通の認識を持ってもらうため、講師から、他市の事例を交えたミニ講座を行った。内容は以下のとおり。

市民自治の視点から、市民は自らが暮らす環境のあり方に対して、必要な状況を共有し、自ら提案し決定する権利を持つのと同時に、良好な環境の維持に対する責任があると言われていています。それは、個人のライフスタイルが多様化する中で、公共サービスに求められるものも多様化、複雑化してきて、行政でできることに限界が生じているということです。

各自治体で制定された自治基本条例でも、主権者が市民であることが明記されています。

阪神淡路大震災のときに、生き埋めになった者の約8割が家族や近隣住民など、行政機関以外に救出されていたことから、自らの手で自分の住む地域を守ることが必要とされる契機となりました。

また、時代の変革期には、生活者の視点からの住民発意による取組みが先行し、制度は後から生まれたという歴史があります。

一例として、かつて小樽市において、運河を埋め立てて道路を作る計画がありましたが、地域住民の間から運河保存運動が起こり、このことが最終的には行政を動かし、運河を保存し、現在の形となったことがあります。

これから、日本の人口は次第に減少していくこととなりますが、人口の総数が減ることよりも影響が大きいのは、人口構成が変化することです。

「国立社会保障・人口問題研究所」が行った推計によると、江別市の将来推計人口を2010年（平成22年）と比較すると、2040年（平成52年）では、総人口は78%へ減少し、15歳以上65歳未満の生産年齢人口は60%とさらに減少する一方、65才以上の人口は148%に増加すると見込まれています。

経験したことのない人口減少と高齢化の進行により、これまでのまちづくりとは、やり方を変えていく必要があります。住み続けることのできる地域社会をつくるためには、行政任せにせず、市民もまちづくりに参加して、知恵や力を出し合ってまちづくりを進める必要があります。

市民参加によるまちづくりの例として、JR白石駅周辺の事例を紹介します。

JR白石駅北口周辺の整備と改札口の設置要望が地域住民から出されたことを契機として、まちづくり協議会が設置され、札幌市と共催で住民参加によるワークショップを開催して、駅周辺の整備に関する検討が進められました。

さらに、まちづくり協議会の取組みは、収穫祭や地域の茶の間事業など地域の住民同士の交流に繋がる活動や、まちづくりの拠点として白石まちづくりハウスのオープンへと広がり、「NPO法人白石ネット」を設立し、その後も継続して各種まちづくり事業を行っています。

2. グループ議論

グループ議論では、（１）市民参加を進めることで市民にとってどのような利点があるのか、（２）市民参加をどのように進めていくのがいいのかの２点についてグループごとに話し合い、それぞれの結果を発表した。

（１）市民参加の意義についての主な意見

- ・市民の参加により、行政だけではできないことも工夫して解決できるようになる。
- ・行政の考えることと市民の考えることが一致して速やかに実行されるようになる。
- ・市民が声を出すことによって、行政の問題点や課題が明らかになり、改善が期待できる。
- ・人的交流の広がりが期待でき、課題を共有することで、アイデアや解決策が生まれてくる。
- ・江別を自分のまちとして愛着を感じる人が増える。
- ・参加することで、新たな魅力を発見したり、発信者になることができる。
- ・住民同士のつながりができ、行政と自治会など世代や組織を超えたコミュニケーションが生まれる。
- ・地域に関心を持つ市民が増えることで、高齢者、１人暮らしの方、子どもへの見守りなど、まちの安心につながる。
- ・まちづくりに関するアイデアを言える場所ができるようになる。
- ・イベント等のアイデアが生まれ、地域の活性化につながる。
- ・市民が持つ知見や技術を市政に生かすことができるようになる。

（２）市民参加の進め方についての主な意見

① 制度・仕組みに関すること

- ・他市の先進事例などを、市民と行政が一緒に学べる場があるといい。
- ・市民の不満を無責任に言えるような場が必要。
- ・地域や自治会が主催する事業の方が、市民は参加してくれる。
- ・一度だけで終わらず、多世代がつながり地域の輪が広がる仕組みをつくる。

② 制度の運用に関すること

- ・市からの情報提供の手段として、広報えべつやインターネットを有効に活用するほか、市民の声を伝達する手段としても使ってほしい。また、広報えべつやインターネットを見ない方への情報伝達を工夫する。
- ・市民に対してアンケートを実施する際には、より多くの意見を集められるように、選択肢を増やす。
- ・行政が市民の意見を真剣に聞く姿勢を持ち、きちんとフィードバックする。
- ・市が主催する市民参加の場には、学生、市職員、近隣市の住民など多様な参加者を集める。
- ・テーマを分かりやすくして、自分に関係のあることだと捉えてもらう。
- ・参加しやすい曜日や時間帯で事業を実施する工夫が必要。

- ・年代別に参加者を集める方法と、世代に関係なく参加する方法の両方の良さを生かせるように検討してほしい。
- ・大学でPRを行うなどして、若い人の参加を促す。
- ・ワークショップを行う際には、テーマを絞り、継続して行う。

③ 啓発に関すること

- ・市民参加という言葉が堅いので、参加することへの不安を減らす取り組みを行う。
- ・楽しさがないと参加につながらない。
- ・子どもの頃から市民参加の経験を重ねていくことが重要。
- ・江別の素晴らしさを知ってもらい、興味を持ってもらうことで行動や参加につながる。

④ その他

- ・江別のまちをもっと良くするために、自分たちにできることを考えたい。
- ・より多くの方に市民参加してもらうためには、江別に愛着、興味を持ってもらう必要がある。
- ・地域活動を行う団体に対して、市からお礼をする。
- ・関心があっても参加できない人やお年寄りが参加するために、交通手段を確保する。
- ・子育て世代のために、ぽこあぽこで市民ワークショップを開催する。

Ⅲ まとめ

ワークショップにおける意見交換では、市民参加について、“情報をいかに発信して、いかに受け取るか”ということが重要とする意見が提出され、多くの参加者から同意する声があったことから、今後の市民参加を進めるに当たっては、情報提供のあり方を課題の一つとして検討する必要性が確認された。

また、“住民参加を通じてまちに対しての理解や誇りが生まれるものであり、誇りのないところにまちづくりは生まれない“との意見があり、江別市に住む方に、江別に対する興味を持ってもらい、愛着を感じてもらうことも大切であることについて、参加者の共感が得られた。

さらに、今回のワークショップを含めて、“市民参加することと自分との関わりが実感しづらいため、参加のハードルが高い“という意見があり、このことから、参加しやすい入口をつくる工夫が必要であることが確認された。

また、意見を聞きっぱなしにするのではなく、しっかりと行政が受け止める態勢をつくってほしいとの声があり、さらに、行政だけで受け止められない部分については、住民がカバーするとの思いを持って、みんなでまちをつくっていくべきだとの意見提出があった。

こうした意見をはじめ、今回のワークショップの結果は、市民参加条例検討の過程で資料として活用するほか、今後の市民参加に関する取り組みの参考として生かすこととする。

資 料

1. ミニ講座資料
2. 会場写真
3. ワークショップ参加者

まちづくりに市民が参加する

なぜ、市民参加のまちづくりなのか

- 市民自治の視点から
「市民は自らが暮らす環境のあり方に対して、必要な情報を共有し、自ら提案し決定する権利をもつのと同時に、良好な環境の維持に対する責任がある。」

まちづくりは、主権者である市民と市が、それぞれに果たすべき責任と役割を分担しながら、相互に補完し、及び協力して進めること(以下「協働」という。)を基本とし…

宝塚市まちづくり基本条例(2002)

市民は、地域社会の課題を自ら解決していくことを基本として、その総意によって市を設立し、地域社会における自治の一部を信託していること。市民は、その信託に基づく市政に自ら主体的にかかわることにより、個人の尊厳と自由が尊重され、市民の福祉が実現される地域社会の創造を目指すこと。

川崎市自治基本条例(2005)

江別市自治基本条例

(目的)

第1条 この条例は、江別市の市民自治の基本理念及び基本原則並びに自治運営の基本的な事項を定め、市民の信託に基づく議会及び市長等の役割及び責務を明らかにするとともに、市民自らが考え、行動する、市民自治を実現することを目的とする。

(市民自治の基本理念)

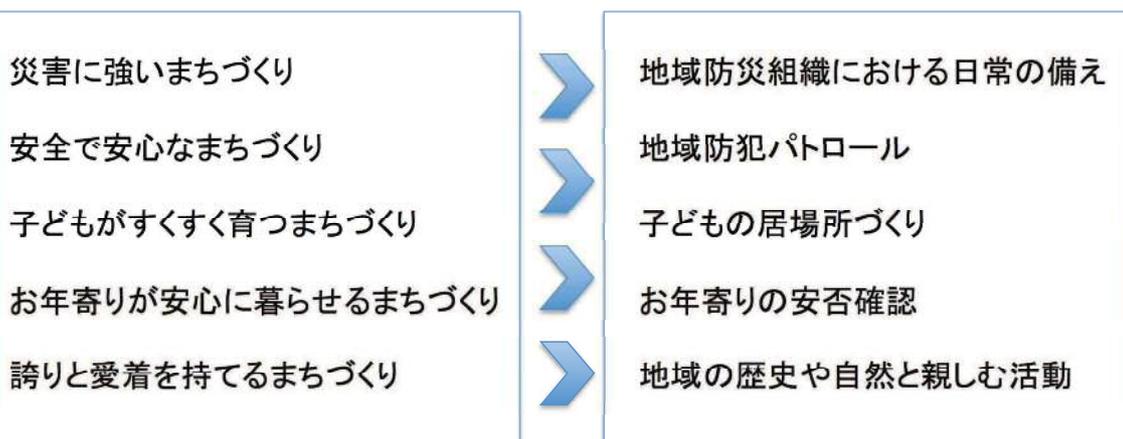
第3条 市民一人ひとりが自治の主役として、市政に関する情報を共有し、自らの責任において主体的に考え、積極的にまちづくりに参加及び協働しながら、より良いまちづくりを推進することを市民自治の基本理念とする。

(市民自治の基本原則)

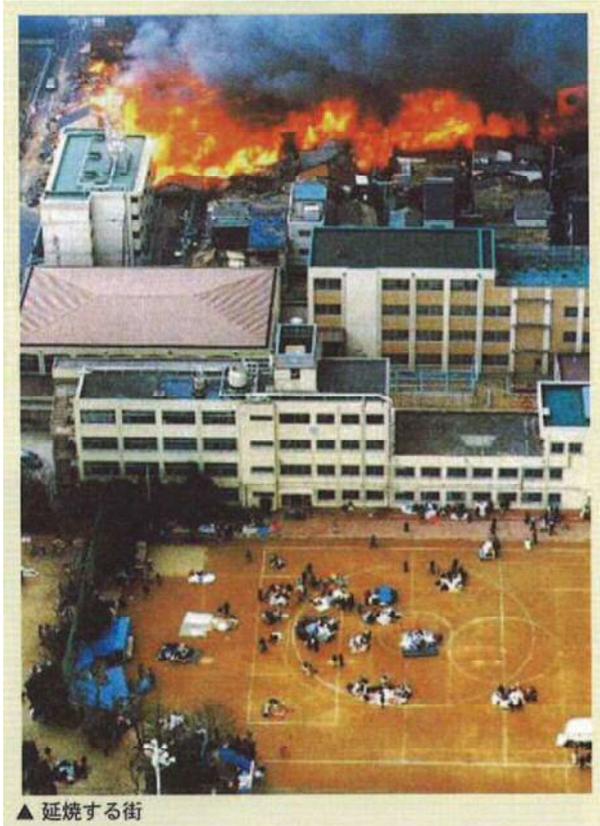
情報共有の原則	市民及び市は、まちづくりに関する情報を共有すること。
市民参加・協働の原則	市民は、まちづくりの主体として、まちづくりへの参加及び協働を進め、市は、それを尊重すること。
信託と責任の原則	市は、市民の信託に基づき、公正かつ誠実に市政を運営する責任を負うこと。

なぜ、市民参加のまちづくりなのか

- **行政の限界**
「個人のライフスタイルが多様化する中で、公共サービスに求められるものも多様化、複雑化してきており、行政でできることに限界が生じている。」



阪神淡路大震災の教訓



● 生き埋め者を救出した人



生き埋め者の約8割が、家族や近隣住民に救出されたといわれている。

出典：大規模地震災害による人的被害の予測/自然災害科学vol.16, No.1/
河田豊成/平成5年



なぜ、市民参加のまちづくりなのか

- 住民の先見性
「時代の変革期には、常に、生活者の視点から生まれた住民発意による取組みが先行し、制度はあとから生まれた。」

神戸市丸山地区
文化防犯協議会の設立(1965)

小樽運河を守る会の設立(1973)

阪神淡路大震災の復興支援(1995)

公益信託世田谷まちづくりファンド
世田谷まちづくりセンター(1992)



公害対策基本法(1967)

伝統的建造物群保存地区(1975)

NPO法(1998)

都市計画法の改正
都市計画提案制度の創設(2002)

小樽のまちづくりと市民運動

町は過去に生きた人たちと、現在の者と、これから生きる人たちの共同作品。過去の人たちの英知、積み重ねた文化や歴史を受け継いで私たちの今がある。私たちはそれを確かに次の世代に伝承していく責任がある。



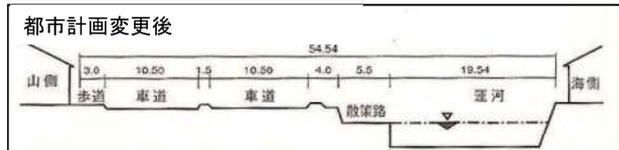
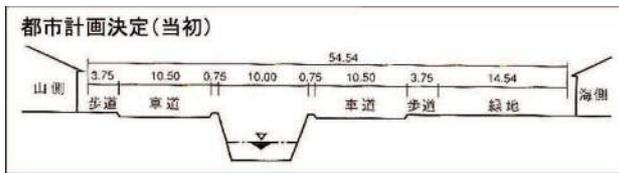
保存運動当時の小樽運河



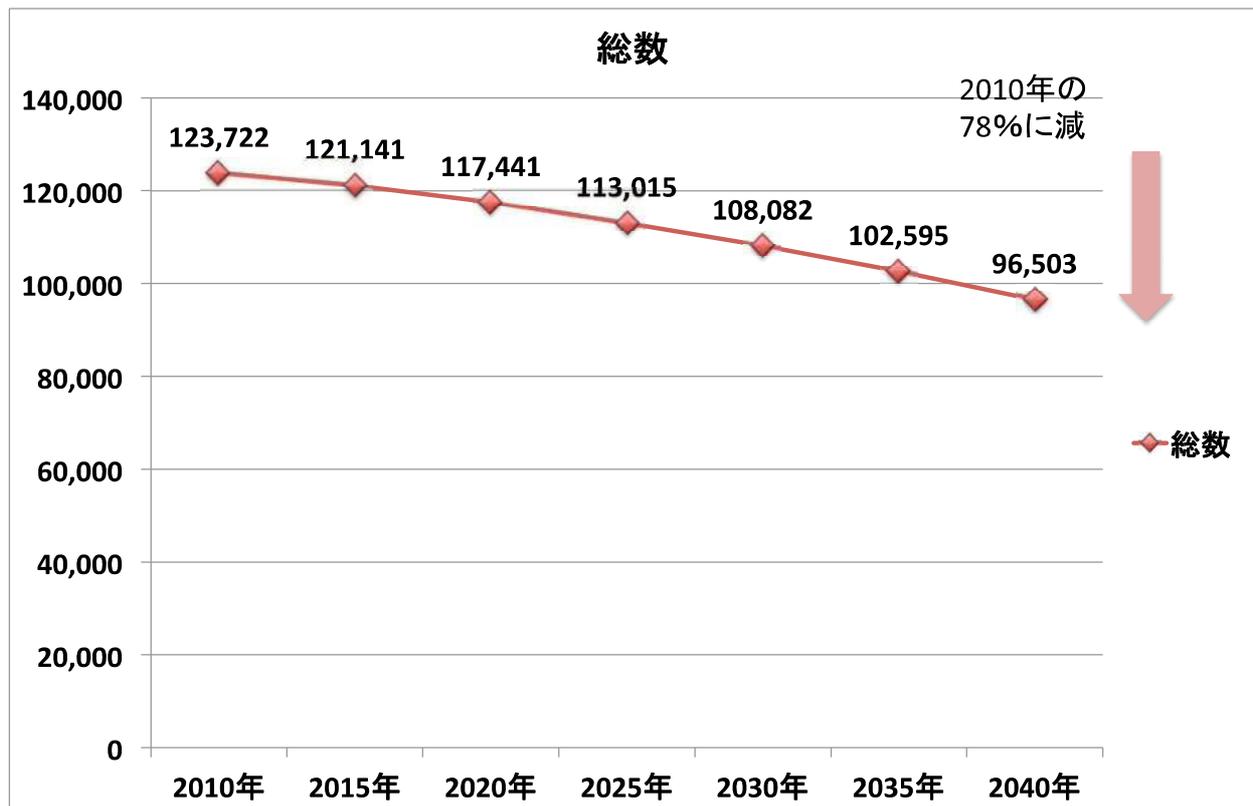
現在の小樽運河



元小樽運河を守る会会長峰山さん

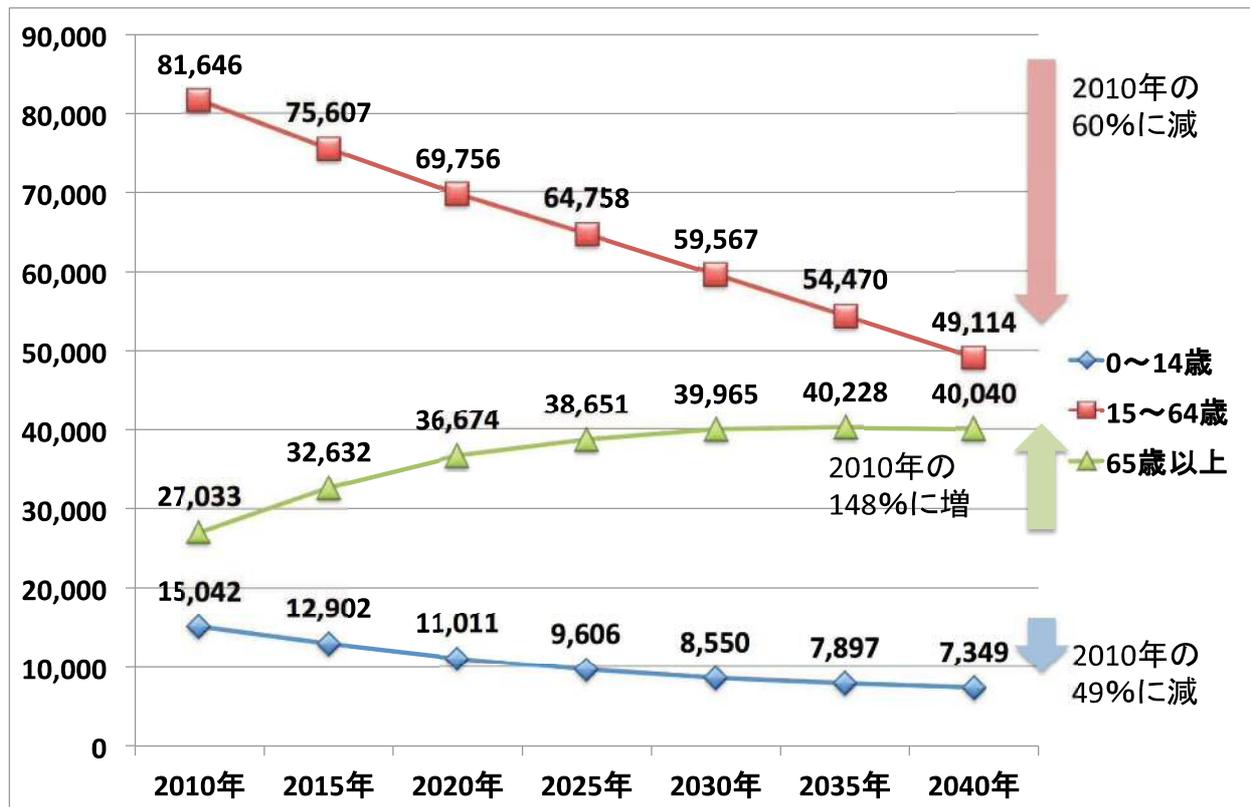


江別市の将来推計人口(平成25年3月推計)



国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」より作成

江別市の将来推計人口(平成25年3月推計)



国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25(2013)年3月推計)」より作成

これまでに経験したことの無い
人口減少と高齢化の進行

これまでの右肩上がりの時代の
まちづくりの方法が通用するのか？

人が減り、高齢化がすすんでも
安心安全に、誇りをもって暮らせる
地域社会をどのようにつくってイけるのか？

行政まかせにせず
市民もまちづくり参加して
知恵や力を出し合ってまちづくりを
すすめる必要があると思います

JR白石駅周辺の 参加から始まったまちづくり 10年



JR白石駅周辺地区まちづくり協議会と札幌市の共催で行なわれた住民参加ワークショップ



「まちづくりプラン」を考えるワークショップ(平成12年度・平成13年度)

自由通路と交通広場の整備に関するワークショップ(平成15年度)



項目	計画 10~15年度	計画 16~20年度	計画 21~25年度
1 計画区域の整備(計画区域の整備)	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
2 自由通路の整備(自由通路の整備)	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
3 交通広場の整備(交通広場の整備)	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
4 自由通路と交通広場の整備(自由通路と交通広場の整備)	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
5 自由通路と交通広場の整備(自由通路と交通広場の整備)	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
6 自由通路と交通広場の整備(自由通路と交通広場の整備)	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
7 自由通路と交通広場の整備(自由通路と交通広場の整備)	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
8 自由通路と交通広場の整備(自由通路と交通広場の整備)	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
9 自由通路と交通広場の整備(自由通路と交通広場の整備)	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
10 自由通路と交通広場の整備(自由通路と交通広場の整備)	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
11 自由通路と交通広場の整備(自由通路と交通広場の整備)	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●



大切なのは、駅の南北のまち(ヒト、コト、場)がひとつになること

JR白石駅周辺地区まちづくり協議会の取組



駅南北住民の交流を目的に開催した「白石収穫祭」



駅近くの未利用地で「白石農園」子どもたちとの収穫



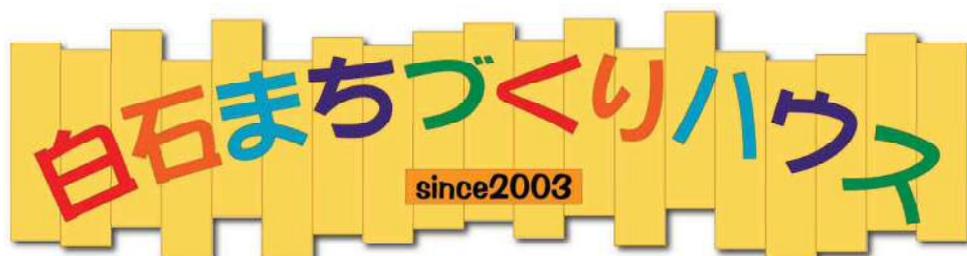
駅周辺花いっぱい活動



JR白石駅
100周年記念事業

JR白石駅周辺地区まちづくり協議会の取組

駅周辺まちづくり活動の拠点「白石まちづくりハウス」のオープン



- 設立：2003年6月1日
- 役員数：（2004年度）
運営委員18名
監事2名
- 役員構成：商店街関係者・福祉関係者・地域住民など
- 会費：年間一口5000円
- 会員数：現在75名（団体）



JR白石駅周辺地区まちづくり協議会の取組



喫茶コーナーでおしゃべり、地域の会議の場、
サークル活動の場
「地域の茶の間」「クリスマス・フェスタ」「青空市」

NPO法人 白石ネットの設立



JR白石駅

“思い出レンガ”プロジェクト



白石でかつてレンガの生産が盛んだった歴史を伝えたい！

80年ぶりに白石の粘土を採取し、白石レンガの復活



5,279個の思い出レンガを札幌市に寄贈
完成セレモニー(平成23年11月)

JR白石駅

つむ・つむ・レンガプロジェクト



新しい駅と広場の誕生を子どもたちの思い出に
駅周辺4小学校の5年生全員が参加して制作ワークショップ
6年生の秋に完成

宿根草ガーデンプロジェクト



花壇の住民試験管理も始まりました



新しく出来る駅広場に
宿根草の大花壇をつくる取り組みも



会場写真

8月22日（金）



ミニ講座



各グループの発表

～市民参加の意義～

A

- まちの中心 防災 につながる!
 - ↳ 保護が中心の外道びらでつながる
 - ↳ (人着の歩道のあつソフ外道びらつながる)
 - ↳ 命地の有効利用につながる
- まちの文化に関する情報や記録をわかちあは (ex: 2015/150の温かい) 協力する
- 地域の活性化につながる
 - ↳ 地域の人々の交流の促進
 - ↳ 市民愛着がうまくなる!
- 個人の発想が広がる
- 行政に対して関心をもてる
- 広報誌 広報誌ついでにふたつある!
 - ↳ (面白い情報がある)
 - ↳ HPもまた中ボリもあつなす!
- 3つの号観見がPr.がある!
- 除雪活動のりどりの参加がある
 - ↳ 除雪会のグループ

～市民参加の進め方～

A

"市民参加"という言葉を大切に!!

全体的にムズカシク... ↓

- ↳ 2.5kmの幅がわり幅く
- ↳ 代わち集まるとはイメージがある
- 歩道の歩道の参加とUPの地につ
- ↳ 必成に行く 行える
- ↳ 中心部で20X 公民館のあつなす
- 3.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
- ↳ 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
- ↳ 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
- 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
- ↳ 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
- 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
- ↳ 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
- 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
- ↳ 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は

～市民参加の意義～

B

- つながりを意識的に作る
 - ↳ イベントがその口口!!
 - ↳ まちへの愛着がわく
- 3.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
 - ↳ 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
- 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
 - ↳ 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
- 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
 - ↳ 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は

～市民参加の進め方～

B

- 行政が真剣に言話を聞く姿勢
 - ↳ 行政力につなげる
 - ↳ (最低限、スピードバック)
- 7-7の幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
 - ↳ 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は 2.5kmの幅は
- テーマをしまる
 - ↳ 参加しやすくする
- 継続する (PDCAが大事)
 - ↳ 1回で終わりはなく!

～市民参加の意義～

C

- 人とのつながり、生きがいができる
(引退後の居場所づくり)
泉とあはれ (Good!)
- 地域のかかわりに高齢者も学生も巻き込む
(少子高齢化を受け入れる)
- 地域を活性化させるイベントに
継承性が生まれる
- 江別に愛着をもたせる/
(歴史やまちづくりに関心をもち、まち)
- まちづくりに関するアイデアを言える場所ができる
(江別高校のあとに道の駅...?)

～市民参加の進め方～

C

- 江別のすばらしさを知ってもらおう
→ 興味をもってもらおう
→ 愛着
→ 行動・参加
- 市が主催する市民参加の場には、
学生や周辺都市の住民など色んな人に参加
してもらおう
(市役所の人も)
- 小中学生のころから
市民参加の経験をもたせる (頭も動かすアイデア)
- 例えば 野球クラブが地域活動をするとき
街歩きごほうび (フィールド
環境)
- (自治会) 主催する場の方、市民はよく知る
か
町内会

～市民参加の意義～

D

- ① 市民と市政とのコミュニケーションが
深まる。
- ② 様々な意見が出て、不足しているもの
現在進行形のものも把握して
提案がしやすくなる。
- ③ 問題と共有する事により、アイデアの
(課題)
発掘や課題解決につなげる
- ④ 参加することで新たな魅力を発見
したり、発信者となることにつながる。
- ⑤ それぞれの幸せのために、それぞれに違う
価値感を認め合えることができる。
- ⑥ スペースをもち対策できる(市民は)

～市民参加の進め方～

D

- ① 「不満」^{への}情報収集を無責任に
(不満を)
言える場が必要。
→ 個人が関心のあるテーマを否定せず
促しを探出す。
- ② 参加しやすい時間帯で実施
例えば、木曜と日曜の2回実施
- ③ 全国の自治会、町内会の
好事例を皆で学ぶ機会を作る
- ④ 市民参加イベントの内容を
再考し欲しい
→ 予想できないアイデアを拾うもの
→ 選抜肢を増設等

8月23日(土)



ミニ講座



各グループの発表

～市民参加の進め方～

A

- 自分の意見が反映されるとういことあり!
- 事前に参加するの不安と不安を解消させる
(注意の点と疑問点を伝える)
- やほり 案があること大事!! 企画者本人が参加者本人になる。
- 花植え・おひりとう手作業が好まれている
参加者がわかる
- 広報 知らせが大事!! 馬車スポーツ
イベントがめんどくさい
- やほり 直接 声掛けが大事!
- | | | |
|---|---|---|
| 大 | 野 | 江 |
| 塚 | 根 | 別 |

 地域を区別して考えるのが大事
 大きくてエリアで考えることが大事
 ⇒ 市民横断的の視点
 自治会町内会を区別

～市民参加の意義～

A

- 行政が考えるのと市民の考えが一致して
お世かに行われる!
- 市民同士の輪が広がる!
- 自治会 町内会が参加するのと...
 (13組の人と話ができる
とヒートアップできる
集まる場をつくるのが大事!!
 直接的な声掛けが大事
 町内会を区別して考える
- 60歳 定年後の居場所づくり
 市立の居場所
 多世代の居場所をつくること Good
- 3世代帯を応援する
 3世代帯を応援する
- 若人が住み続ける
- 夏祭り (節祭り) と他の行事をつくること!!

～市民参加の進め方～

B

- 足: 関心がある人も参加できる!!
 { コミュニティバス
バスの会社、常盤施設と連携(病院)
市立登録性で自家用を活用 }
- 言葉の合う、一回参加する、きっかけ
- 若い層 も参加させる
 { 3世代、住み替え
イベントを開く、
地産PRする }
- 江別も観光化できる!!
STOP The 札幌
地産地消(足がめんどくさい...)
泊まることがない... (高い)
学校を活用!

～市民参加の意義～

B

- コミュニケーションが増える
 (行政、町内会
他の組織、世代間)
- まちの活性化が早まる
- 誰かが愛するまちに!!

～市民参加の進め方～

◎ 連鎖型のワークショップ

→ | 回を何回も繰り返す。多世代が
どどんとつながり、地域の輪が広がるしくみ

◎ 鬼ヶ原の江別イベントを
きっかけに人を呼び込む

→ ワークショップの開催をきっかけにイベントを
(加瀬川沿い、小樽29、サッポロ)

◎ ほこあほこ市民ワークショップを

→ 子育てママも参加できる
遊ばいふま感で回るしくみ(多田)

～市民参加の意義～

◎ 江別の未来を語る場
ができる

課題: 若者が住み続けたい地域を
見守り: 小麦・パン・スイーツ農産
アイデア: 移住者の受け入れ→地域に溶け

◎ 自分の知見を市政に生かす
(お母さん)

◎ ひとり暮らしの方を見守る目が必要
(市民ボランティアなど)

高齢者だけじゃなく
35歳まで...

～市民参加の進め方～

(D)

① 市民と大学生が一括の
ワークショップを重んじていく!!

② 市民の声を伝達する手段として
広報・インターネットの活用を!!
その、広報・ネットをいかに活用するかの検討が必要!!

③ 年代別と世代を越えた
参加環境の検討を要する!!

～市民参加の意義～

D

① 人的交流の仕組みが期待出来
江別の生活問題をいかに共有

② 市民参加を推進し
世代を越えて話し合う仕組み

③ 市民参加、市民の声をいかに
行政の問題点、課題を
明らかにし、改善を期待

★ 江別を自分の街として
好きになる。
愛着を深める

ワークショップ参加者

8月22日（金）

グループ	性別	年代
A	男性	20代
	女性	40代
	男性	50代
	女性	60代
B	男性	30代
	男性	50代
	男性	60代
	男性	70代以上
C	男性	30代
	男性	50代
	女性	50代
	男性	60代
D	女性	30代
	男性	40代
	男性	50代
	男性	60代

男性12名、女性4名

8月23日（土）

グループ	性別	年代
A	男性	30代
	女性	50代
	男性	70代以上
	女性	70代以上
	女性	70代以上
B	男性	50代
	女性	60代
	男性	70代以上
	女性	70代以上
C	女性	30代
	男性	60代
	女性	60代
	男性	70代以上
	女性	70代以上
D	女性	50代
	男性	60代
	女性	60代
	男性	70代以上
	女性	70代以上

男性8名、女性11名

合計 男性20名、女性15名